Column

内定（内々定）をもらったら

晴れて内定。嬉しい気持ちもあるけれど、慎重な対応を心がけましょう。

1 内定と内々定はどう違うのか

内定・内々定は、ともに企業が学生に対して「採用したい」という意思を伝えることを指します。意思の伝え方は企業によって異なり、口頭の場合や文書の場合があります。

内定と内々定は10月1日を基準に区別されています。これは、日本経団連が規定する「採用選考に関する指針」で「正式内定は10月1日以降」と定められているためです。10月1日以前に採用の意思を学生に伝える場合、内々定という表現が使われます。呼び方の違いはありますが、大きな差はありません。

通知の形はさまざま

口頭による通知

最終面接の場で「内々定です」と直接的に言われる場合もあれば、「来春から一緒にがんばりましょう」「もう就職活動を終えてもらって良いですよ」などと遠まわしに言われる場合もあります。内々定を意味しているのかはっきり分からない場合は、「内々定と考えてよろしいでしょうか？」と確認しておきましょう。

文書による通知

採用試験が終了した後に、メールや手紙で内定通知が届きます。なお、その後に誓約書などの書類を提出するように求められる企業もあります。

2 誓約書を求められた場合は

内定をもらった後で、企業から誓約書（入社承諾書）の提出を求められることがあります。入社の意思がある場合は、すみやかに提出しましょう。他の企業への活動を続けているなどで、まだ入社を決められない場合は、提出期限まで待ってもらっても構いませんが、提出が遅くなることを事前に企業へ連絡しておきましょう。また提出を迷った際は、キャリアセンターや家族に相談しましょう。

3 複数の企業から内定をもらったら、早めに決断を

複数の企業から内定をもらったとしても、最終的には1社に絞り、他の企業は辞退しなければなりません。内定の返事については回答期限が設けられる場合もあり、いつまでも保留はできません。早めの決断を心掛けましょう。また、事前に複数の企業から内定をもらうことも想定し、優先順位を決めておくと良いでしょう。

4 内定を辞退する際は誠意を持って

複数の企業から内定をもらった場合、内定を辞退する必要が出てきます。企業も、採用のためにたくさんの時間や労力、費用を使っているので、失礼のないように誠意を持って辞退の意思を伝えましょう。

POINT 1 できるだけ早く辞退の意思を伝えよう

内定辞退の意思が固まったら、できるだけ早くその意思を伝えましょう。早く伝えることで、企業側も内定辞退者が発生した後の対策を考えることができ、それが他の学生のチャンスを広げることにもなります。

POINT 2 電話やメールだけで済まそうとしない

辞退する場合は、人事担当者に電話で辞退の意思を伝えた上で、日を改めて訪問し、直接会ってお詫びをしましょう。電話の段階で「訪問の必要がない」と言われることもありますので、その際はお詫びの手紙を送りましょう。くれぐれも、電話やメールだけで済まそうとしないようにしましょう。

POINT 3 誠意を持って伝えよう

企業は時間や労力、費用を使って、内定者を決定しています。内定辞退はその労力や費用を無駄にしてしまうことになりますので、訪問した際には誠意を持って、失礼のない態度で、辞退の意思や理由を伝えましょう。

内定が出なくても

誰もが初体験の就職活動。負い目に感じず、前向きに。

1 まずは気分転換をしよう

厳選採用を行う企業が多い現在、本当に自社で活躍してくれる人材かどうかを慎重に判断して内定が出されています。また「出会い」や「縁」という側面もあるので、結果が出なくても落ち込みすぎないように。不安な気持ちやストレスを解消するために、思いっきり気分転換することも必要です。

2 焦らず、落ち込まず、冷静に

なかなか内定が出ないと、不安になったり、自信をなくして落ち込むこともあるでしょう。また、まわりの友達に内定が出ると、「自分も早く内定を」と焦ってしまいがちになります。しかし、焦ったり落ち込んだりすることは何のプラスにもなりません。

就職活動で1番大切なことは、自分に最も合っている企業に出会うこと。自分がやりたいことや自分の適性を、もう1度落ち着いて考えてみましょう。

3 これまでの就職活動を振り返ろう

なぜ内定が出ないのかを考える際、まずこれまでの就職活動を振り返りましょう。振り返る際のポイントは多くあります。例えば、企業や職種の研究は十分にできていたか、自己分析はしっかりとできていたか、自分は選考のどの段階で落ちてしまうのか、面接での応対や身だしなみは適切だったかなど、しっかりと振り返り、自身の就職活動を再チェックしましょう。

4 ステップごとに原因を探ってみよう

選考のどの段階で落ちたのか、どこが良くなかったのかなど、内定が出ない原因をステップごとに探りましょう。業界・職種・企業研究、エントリーシート、筆記試験、面接といった各場面の中で、できる限り細かく原因を探し出し、その原因に応じた対策を考えましょう。

原因を探る例

業界・職種・企業研究	● 絞りすぎていないか？
↓ エントリーシート	● しっかりと自己 PR ができていたか？
↓ 筆記試験	● 筆記試験の対策はちゃんとできていたか？
↓ 面接	● 志望動機は自分らしさが伝わっていたか？